

中国の人口と「北上広深」のはなし

JSC 貿易部ニュース 中国編

いつもお世話になっております。

毎号、当メルマガに目を通して頂いてありがとうございます。

今年の中国の旧正月（春節）は1月22日だったのですが、中国がまもなく正月を迎えようとする1月17日に、わりと大きなニューストピックが入ってきておりました。

2022年全国人口減少85万



中工网

2023-01-17 13:20 | 中工网

关注

1月17日，国家统计局公布2022年国民经济运行情况。

人口总量有所减少

年末全国人口（包括31个省、自治区、直辖市和现役军人的人口，不包括居住在31个省、自治区、直辖市的港澳台居民和外籍人员）141175万人，比上年末减少85万人。全年出生人口956万人，人口出生率为6.77‰；死亡人口1041万人，人口死亡率为7.37‰；人口自然增长率为-0.60‰。

(<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1755245815351646578> より)

中国国家统计局の発表によると、2022年、中国の人口が85万人減少したそうです。実に61年ぶりのことだそうで、あまりうれしくないニュースだったのか、当日朝イチのニュースランキングでは1位だったのに、昼過ぎにはランク外になっていました（中国では、都合の良いニュースの場合、恣意的に？除外されることがあるみたいですが）。

今後中国が少子高齢化によって直面する社会保障の負担増や労働人口の不足（これは中国石材業界でもここ10年くらい常に心配されている話題です）など、日本同様、深刻な社会課題となっていきそうです。

また上記の記事では、農村部から都市部への人口流入も顕著になっていると指摘されています。都市部では646万人の増加があったのに対し、農村部では731万人の減少があったそうです。以前より都市と農村の貧富の差を埋めるため、農村優遇措置やUターン優待などの政策がありましたが、現実には人々がよりよい生活を求めて沿海部の都市や、重慶・成都など内陸部の大都市に集中する傾向に歯止めをかけるのは難しいのかもしれない。

タイトルの「北上広深」も中国の都市の話題です。

数年前より中国の経済誌で毎年発表されている都市ランキングがあります。

「一線都市」「新一線都市」～「五線都市」などと分けて発表されています。

(<https://www.yicai.com/news/101430366.html>)

その中で数年間ずっと「一線都市」にランキングされている4つの都市が、

- ①北京
- ②上海
- ③広州
- ④深圳

で、その頭文字をとった「北上広深」というワードは、大都市の比喩としても使われています。

ちなみに「新一線都市」には、杭州や天津、南京など、我々にも耳馴染みのある大都市が入っています。

石材にゆかりのある厦門、泉州、大連などは「第二線都市」にランキングしています。

それより下のランクだと、G688などが採れる漳州が「三線都市」に、G213やG9426の鉱山がある湖南省懷化市が「四線都市」にランキングされていますが、G1704のふるさと・黒竜江省牡丹江は五線都市にも入っていないようです。

年初めに弊社の中国事務所の社員とも話していたのですが、昨年12月に唐突な規制緩和を行った中国のコロナ対策、上海や北京など大都市は交通の利便性や人口密集度から見てもコロナの感染拡大が非常に早く（すでに人口の80～90%以上が感染したというニュースも

あります)、逆に人口密度の低い農村部はまだそれほど感染が広がっていないようです。

今年の春節は、ここ数年帰省できていなかったことへの反動もあり、”民族大移動”とも呼ばれていたコロナ前の状況に戻ると考えられます。しかし、帰省にともない農村部への感染拡大が予想されており、春節後の稼働状況の予測は難しいものになっています。

「帰省中に陽性になった従業員が多く、工場を再開できない」

「陽性なので電車や飛行機に乗ることが出来ない」

といったことが起こりそうな雰囲気ですので、非常に心配しています。

春節後は不測の事態も予想されますので、お客様におかれましても、特にお彼岸時期の商品については、納期に余裕を持ってご準備いただくようお願いする次第です。

その他、中国産の石材情報では、「海滄623」や「長泰654」の復活に関するニュースがしばしば飛び込んでくるものの、まだ実現はしていないようで、こちらも注視して情報をお伝えしてまいりたいと思います。

では、今月は以上です。来月もどうぞよろしくお願ひ致します。

2023/02/01